

第三世代シーケンサー PacBioRS[®]の最新動向と応用事例

これまでの第二世代をはるかに上回るリード長を実現し、且つリアルタイムで解析を行う最新の1分子シーケンス機能を備えた革新的な第三世代DNAシーケンサーの最新情報並びに実用例などをご紹介します。

日時： 平成25年10月8日（火） 15:30～16:30
場所： 筑波大学遺伝子実験センターセミナー室（2F）

演者： トミーデジタルバイオロジー株式会社 橋本 和明氏

概要

1分子リアルタイム検出は、個別分子のダイレクトな測定を可能にし、同時に、カイネティクス情報も保有する事で幅広く次元のデータを捉えられるようになりました。

PacBioRSでのシーケンシングでは、第二世代シーケンサーに必要とされていたPCRによる増幅が不要で、従来GC含有量によってシーケンシングに不向きとされている部分も、PacBioRSではデータを得ることができます。

また、DNA合成と検出を同時に行い、カイネティクス情報として記録されるため、DNAのメチル化といったテンプレート配列の修飾も同定可能です。



連絡先

トミーデジタルバイオロジー株式会社
パシフィックバイオサイエンス事業部
津川 宣孝
Email :

noritaka_tsugawa@digital-biology.co.jp
Tel : 03-3242-7789

製品URL : <http://www.digital-biology.co.jp/allianced/products/pacbio/>

世話人: 遺伝子実験センター小口・下野(内線7726)



Digital Biology[®]



PACIFIC
BIOSCIENCES[™]